

# ほんまぢ

1 月 園だより  
令和 3年 1月 8日  
渋谷区立本町幼稚園発行

<https://shibuya.schoolweb.ne.jp/hon-yo>

## 心の強さをもつ

園長 森山未来

静かに、そして穏やかに、新しい年が始まりました。STAY HOME で過ごすお正月は、皆様いかがでしたでしょうか。空の青さと美しさをいつも以上にまぶしく感じる三が日、私事にはなりますが、自宅付近から見える富士山（今年は雪が少ない？）をはっきりと眺めることができ、例年よりも空気が澄んでいると感じました。心も体も縮こまったり塞がったり、窮屈な日常が繰り返される中、新年の凜とした空気に包まれ、久しぶりに晴れやかな気持ちを味わいました。

さて、令和3年（2021年）は、丑年です。「牛」ではなく「丑」という文字を使いますが、干支は、年や日、方位を表す漢字を用い、元々動物の意味はありませんでした。人々に覚えてもらうために、あとから動物を当てはめたと言われています。ちなみに、中国に伝わる十二支の物語では、牛は、自分が歩くのが遅いことを知っていたので、誰よりも早く、前の晩のまだ暗いうちに神様の元へ出発しましたが、牛の背中に乗ってやって来たネズミが飛び降りて1番になり、牛は2番になってしまったと伝えられています。この物語から、丑年は“先を急がず一歩一歩着実に物事を進めることが大切な年”とされるそうです。また、牛は大変な作業が与えられてもコツコツと誠実に働くことから、“耐えることはあっても、これから発展することや芽が出ることに期待できる年”であるとも言われます。まさに、今の私たちの状況を表しているのではないのでしょうか。全世界の人々が、じっと耐え忍ぶ生活を余儀なくされていますが、必ず、事態は好転するという希望を今年の干支が暗示してくれているように思います。

未だ、新型コロナウイルスの感染拡大は、収束の気配が見えません。緊急事態宣言が発出される中で幼稚園生活を再開させるにあたり、今一度、皆さんに考えていただきたいことがあります。それは、私たちの心を覆う「恐怖」についてです。昨年4月、緊急事態宣言が発出された際、日本赤十字社が『ウイルスの次にやってくるもの』という動画を配信しました。ご覧になった方もおられるのではないのでしょうか（検索するとすぐに視聴できます）。この動画の中で次の言葉が語られます。「きちんと手を洗うことでウイルス感染の確率は下がるけれど、そいつ（恐怖）は、私たちの心の中にひそんで流れていかない。そいつ（恐怖）は悪い噂をささやき、人から人へと広まっていき、周りへの攻撃を始め、人と人が傷つけ合い、分断を生じさせる…」。8か月前と今とでは、私たちの新型コロナウイルスの捉え方は変化しているかもしれません。しかしながら、感染は、より一層身近なものとなり、すぐ隣に迫ってきています。感染症対策を十分に行っても、感染する確率は0%にはならないということを自分のこととして、更に隣人への痛みとして覚えておきたいと思います。「恐怖は誰の心の中にもいる。だから、励まし合おう、応援し合おう」「恐怖に振り回されずに、正しく知り正しく恐れて、今日、わたしたちにできることをそれぞれの場所で…」と、先に紹介した動画は締めくくります。私たち自身が、差別や偏見、誹謗、中傷という悪い連鎖に巻き込まれないように心を強くしていきたいものです。そして、私たちの心がウイルスの恐怖に支配されないように願っています。

